

令和4年度

# 事業報告



人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.

## 日本赤十字社の使命

わたしたちは、  
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、  
いかなる状況下でも、  
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

## わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

## わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、  
人道の実現のために、  
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、  
人の痛みや苦しみに目を向け、  
常に想像力をもって行動します。

## はじめに

会員の皆様方をはじめ関係各機関の方々には、赤十字事業の推進に格別のご理解とご支援を賜わり誠にありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症については、令和4年度においても事業推進に大きな影響を及ぼすこととなりましたが、感染対策の徹底等を行いながら、各事業を展開することができました。

日本赤十字社の重要な責務である災害救護事業においては、行政及び関係団体と連携した訓練を開催しました。また、災害時に活動する赤十字救護班要員及び赤十字防災ボランティアを養成するための研修も実施しました。

医療事業においては、地域の中核病院の責務としての通常診療に加え、新型コロナウイルスに感染した患者の治療に取り組んでまいりました。また、より高度な医療技術を提供するために、名古屋第一病院及び名古屋第二病院において、手術支援ロボット「ダヴィンチ」の追加導入や手術室の増室等を実施しました。

血液事業においては、新型コロナウイルス感染拡大に伴い休止していた献血に関する普及啓発活動の再開や、献血会場での感染予防対策等による新しい生活様式へ対応した献血環境の提供に努めてまいりました。

講習事業においては、対面式に加え、オンラインやDVDを使用する方法を併用しながら講習会を開催いたしました。また、健康生活支援講習及び幼児安全法については、指導員養成講習を実施し、新たな指導員を養成しました。

赤十字奉仕団においては、地域で行われる防災訓練での炊き出しや地元の学校での講習普及を実施するなど、地域ニーズに沿った多種多様な活動を実施いたしました。

青少年赤十字の活動においては、リーダーシップ・トレーニング・センター等の行事をオンライン活用や時期変更などの対策を講じながら行うとともに、2022年青少年赤十字が創設100周年を迎えたことを記念して県内にある赤十字ゆかりの場所等をめぐる研修ツアーを行いました。

国際活動においては、支援を必要としている国々の開発協力に本社を通じて協力するとともに、海外での災害時緊急援助や復興支援、開発協力のための救援

金の受付を行いました。

これらの活動は、会員をはじめとした社資にご協力いただいた皆様、活動の担い手である赤十字奉仕団等ボランティアの皆様、活動を支えていただいている地区・分区などの関係機関の皆様の多大なご支援とご協力の賜物と心から感謝申し上げます。

当支部では、これからも人道をはじめとする赤十字の諸原則に基づき、社会ニーズに迅速かつ的確に応えられるよう尽力して参りたいと存じます。

今後とも皆様の格別のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和5年6月

日本赤十字社愛知県支部

# 目 次

1. 評議員会	1
2. 社資募集	2
3. 災害救護事業	4
4. 医療事業	12
5. 看護師養成事業	14
6. 血液事業	16
7. 講習事業	18
8. 赤十字奉仕団	22
9. 青少年赤十字	27
10. 福祉事業	33
11. 国際活動	34
12. 赤十字の普及	36



# 1. 評 議 員 会

評議員会は、日本赤十字社定款第71条により、支部の重要な業務について審議し、支部長の諮問に答えるほか、本社代議員、支部長、副支部長及び監査委員の選出にあたることになっており、本年度は次のとおり実施した。

議決日	議 案
令和4年6月13日	(1) 令和3年度一般会計並びに医療施設特別会計歳入歳出決算について (2) 日本赤十字社代議員の選出について
令和5年2月3日	(1) 令和5年度事業計画について (2) 令和5年度一般会計並びに医療施設特別会計歳入歳出予算について (3) 日本赤十字社愛知県支部監査委員の選出について (4) 日本赤十字社代議員の選出について

## 2. 社 資 募 集

日本赤十字社は、会員をもって組織される認可法人であり、会員の納入する会費と寄付金によって事業を実施している。

赤十字活動を継続的に支援する会員の確保に努めるとともに、多様な受け入れ方法を取り入れ、社資増強を図った。

### 社資の募集状況

#### 令和4年度社資募集実績

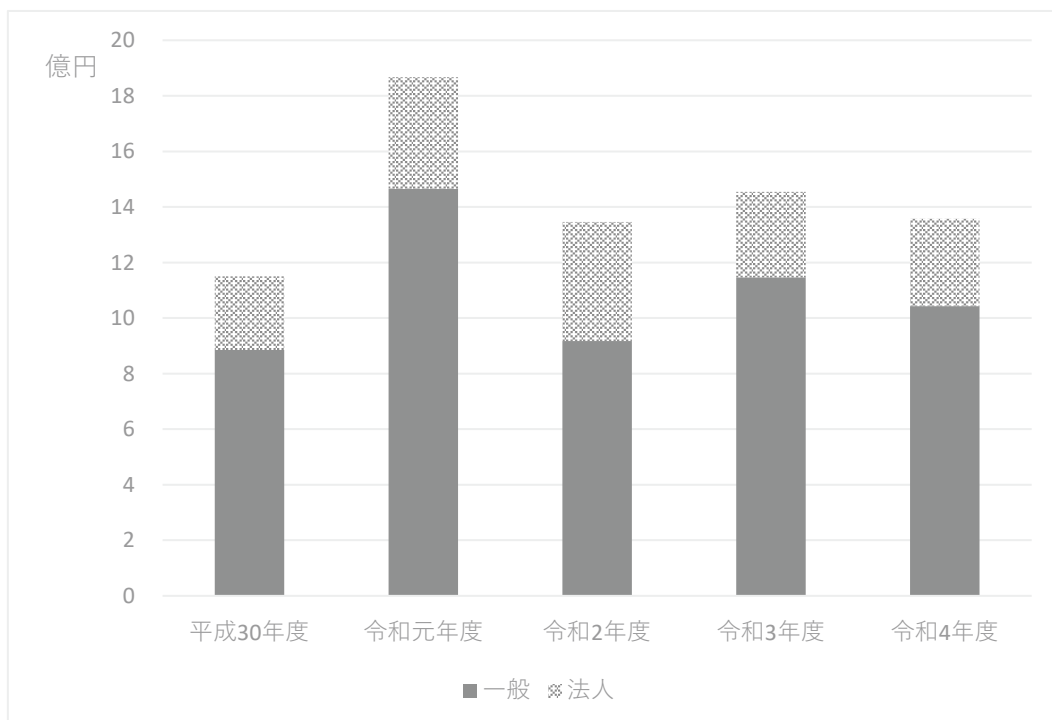
合 計	内 訳				
	一般社資 1,043,498,879円			法人社資 313,890,404円	
	会 費	寄 付 金	指定個人社資	指定法人社資	その他法人社資
円 1,357,389,283	円 568,493,497	円 297,172,723	円 177,832,659	円 160,952,222	円 152,938,182

※指定個人社資は個人住民税の寄付金控除対象となる海外救援金を含む。(37,858,659円)

#### 令和4年度社資募集実績の内訳

	一般社資	法人社資	計
支部が直接募集した社資実績	円 607,241,152	円 301,447,337	円 908,688,489
地区区分が募集した社資実績	436,257,727	12,443,067	448,700,794

#### 過去5年間の社資募集実績の推移





## ○県内地区・分区社資実績

(令和4年度社資実績)

地区・分区名	社資実績(円)	地区・分区名	社資実績(円)
16区地区		東海市地区	9,148,001
千種区地区	6,350,713	大府市地区	9,707,700
東区地区	3,520,170	知多市地区	7,099,921
北区地区	4,414,570	知立市地区	4,553,281
西区地区	6,408,929	尾張旭市地区	4,010,510
中村区地区	5,392,507	高浜市地区	2,578,701
中区地区	3,002,000	岩倉市地区	2,969,685
昭和区地区	3,777,632	豊明市地区	5,828,284
瑞穂区地区	3,861,400	日進市地区	3,705,762
熱田区地区	3,019,735	田原市地区	1,552,096
中川区地区	7,359,551	愛西市地区	4,826,350
港区地区	6,827,847	清須市地区	5,237,890
南区地区	7,102,100	北名古屋地区	6,979,333
守山区地区	7,447,049	弥富市地区	3,169,091
緑区地区	10,366,650	みよし市地区	4,273,600
名東区地区	6,181,263	あま市地区	5,394,840
天白区地区	5,340,530	長久手市地区	3,215,597
37市地区		地区計	412,441,012
豊橋市地区	11,468,918	16町村分区	
岡崎市地区	27,494,403	東郷町分区	3,187,811
一宮市地区	37,819,235	豊山町分区	1,234,420
瀬戸市地区	7,776,267	大口町分区	2,161,600
半田市地区	13,323,577	扶桑町分区	2,497,942
春日井市地区	19,147,258	大治町分区	2,157,469
豊川市地区	11,339,920	蟹江町分区	2,758,625
津島市地区	4,052,387	飛島村分区	535,000
碧南市地区	4,911,000	阿久比町分区	3,314,700
刈谷市地区	13,302,971	東浦町分区	5,888,780
豊田市地区	9,214,762	南知多町分区	1,113,600
安城市地区	12,659,288	美浜町分区	2,348,210
西尾市地区	9,767,035	武豊町分区	4,518,010
蒲郡市地区	4,804,822	幸田町分区	3,486,280
犬山市地区	8,448,195	設楽町分区	781,335
常滑市地区	6,654,000	東栄町分区	121,000
江南市地区	6,791,837	豊根村分区	155,000
小牧市地区	10,840,670	分区計	36,259,782
稲沢市地区	12,178,150	総計	448,700,794
新城市地区	5,823,029		

### 3. 災 害 救 護 事 業

災害救護は、日本赤十字社法（昭和27年法律第305号）に明示された、赤十字の最も重要な事業である。また、災害救助法（昭和22年法律第118号）では、国又は都道府県知事の行う救助業務に対する協力が義務づけられ、さらに、災害対策基本法（昭和36年法律第223号）及び大規模地震対策特別措置法（昭和53年法律第73号）においても、指定公共機関として防災に関する各種計画立案とその実施の責任を課せられている。

愛知県地域防災計画には、当支部の行う業務の大綱として「医療、助産、その他の救助を実施する」ことが明示されており、これに応えるべく、近い将来発生が危惧される南海トラフ地震等大規模災害への対応に万全を期すため、訓練・研修等を行って体制の強化・充実を図った。

#### (1) 災害救護活動

##### ア. 非常配備

台風接近や大雨にともない、災害救護活動が迅速かつ的確に行えるよう非常配備体制をとった。

#### (2) 救援物資の配布と弔慰金の支給

火災や浸水によって被災した世帯を対象に救援物資を配布し、また不幸にして亡くなられた方のご遺族に弔慰金を支給した。

##### ア. 救援物資の備蓄状況

(令和4年度末現在)

毛 布	タオルケット	緊急セット	安眠セット	ブルーシート
23,599 枚	18,270 枚	5,473 セット	6,400 セット	1,000 枚
マスク	消毒液	段ボールベッド	パーテーション	
400 箱	100 箱	200 セット	200 セット	

##### イ. 救援物資等の配布状況

(令和4年度末現在)

全 焼					半 焼					消 火 冠 水				
世帯	人数	毛布	タオルケット	緊急セット	世帯	人数	毛布	タオルケット	緊急セット	世帯	人数	毛布	タオルケット	緊急セット
世帯	人	枚	枚	セット	世帯	人	枚	枚	セット	世帯	人	枚	枚	セット
84	202	224	91	80	17	34	22	7	18	14	31	9	6	9
住家床上浸水					その他									
世帯	人数	毛布	タオルケット	緊急セット	世帯	人数	毛布	タオルケット	緊急セット					
世帯	人	枚	枚	セット	世帯	人	枚	枚	セット					
23	67	24	41	24	0	0	6	6	7					

【救援物資の一例（緊急セット）】

ウ. 弔慰金の支給額

人数	支給額 (10,000円/人)
31人	310,000円

(3) 救護装備の整備

大規模災害の発生に備え、支部、施設、地区・分区に救急車をはじめとした各種の救護用資機材を整備している。

令和4年度は、地区・分区に救護用自動車を4台配備したほか、蓄電池や簡易トイレなどの資機材、合計10品目1,368点を配備した。

ア. 愛知県支部における主な救護装備の整備状況

区分 品名	業務用無線局				アマチュア無線局	簡易無線局	衛星携帯電話・ファックス	救護装備・資材							
	157.73 MHz		415.2625 MHz					救護用車両	発電機	蓄電池	医療セット	携帯型医療セット	医療セット置台	テント	エアータント
	基地局	移動局	基地局	移動局											
令和4年度末現在数	3	71	1	33	2	36	16	21	20	8	8	4	8	12	5
	救護装備・資材														
	リフトテント	フレームテント(DRASH)	投光器	移動炊飯器	折り畳み寝具+(簡易ベッド)	担架	担架架台	拡声器	折り畳み机	折り畳み椅子	防災ポート	モバイルPC	タブレット	モバイルモニター	
令和4年度末現在数	3	4	18	13	256	71	16	19	22	51	1	22	10	11	
	救護員 被服装具														
	ヘルメット	救護服	雨ガッパ	防寒着	ベス	ヘッドライト	編上靴								
令和4年度末現在数	227	2,020	341	438	210	140	430								

イ. 地区・分区における救護装備の整備状況

品名	救護用自動車	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
		移動炊飯器 (LPG・薪両用)	移動炊飯器 (LPG・灯油両用)	移動炊飯器 (LPG)	移動炊飯器 (両用・小)	要援護者対応 災害用簡易トイレ	災害用簡易トイレ	携帯トイレセット	救護用天幕 (スチール)	救護用天幕 (アルミ)	毛布	救護用資材保管庫
令和4年度 配備数	4					12	28	797				
令和4年度 末現在数	61	318	21	145	84	323	650	6,977	1,274	17	10,561	236

12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
投光器付 発電機	バルーン 投光器	車椅子	特定小電力 トランシーバー	携帯用 拡声器	折り畳み ベッド	折り畳み 机	折り畳み 椅子	担架	担架 (階段用)	ランタン	ラジオ付 強力ライト
443	170	417	455	1,200	378	1,431	919	586	21	635	1,105

24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
ブルーシート	ゴムボート	折り畳み リヤカー	レスキューカー (折り畳み式 救護車)	簡易スト レッチャ	避難所用 簡易間仕切り +暖ポ ール畳	避難所用 簡易間仕切り	ワンタツ パーティー ション (避難所用 簡易間仕切り)	プライベ ートルーム	災害緊急 避難所用 マット	AED (収納ス タンド付)	AED (移動式)	発電機 (ガソリン)
							158	87				
3,219	60	315	30	331	373	588	2,759	845	1,042	87	18	142

37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	合計
工具セット	防災ポート	折り畳み式水用ポリタンク セット(10リットル×10個)	エアーマットセット	簡易ベッド	簡単テント	スポットクーラー	ジョイントマット	蓄電池	気化式冷風機	
			92	30			101	40	23	1,368
110	2	394	362	162	16	88	101	40	23	39,473

#### (4) 救護班と救護班要員の登録

当支部では、災害時に活動できるよう研修等を修了した職員を救護員として登録している。

災害発生と同時に直ちに医療救護活動ができるよう、登録された救護員で救護班を編成しており、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院及び日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院の医師、看護師等で編成した常備救護班19個班、906名（災害対策本部要員等を含む）を下記のとおり設置している。

#### 救護班要員の登録状況

(令和4年度)

区分 施設	救護班編成数	本災害対策要員策	救護班要員						血液供給要員	特殊救護要員	合計
			医師	看護師長	看護師	助産師	薬剤師	主事			
第一病院	10 常備	13	30	39	216	18	14	64	—	82	476
第二病院	9 常備	4	25	32	185	11	14	37	—	41	349
血液センター	—	5	—	8	8	—	—	18	7	3	49
支部	—	23	—	—	—	—	—	—	—	—	23
豊田看護大学	—	—	—	—	3	—	—	6	—	—	9
合計	19	45	55	79	412	29	28	125	7	126	906

#### (5) 救護員のための訓練・研修

各種防災訓練への参加や研修会の実施により、救護員の技術向上を図った。

## ア. 訓練

行 事 名 (主催者)	年 月 日	実施状況及び参加状況 (人)	場 所
海部地方総合防災訓練 (海部地方防災連絡会議、海部地区水防事務組合)	令和4年6月5日	支部 1 あま市赤十字奉仕団 4 大治町赤十字奉仕団 6	愛西市
令和4年度中部国際空港緊急計画連絡協議会「図上シミュレーション訓練」(中部国際空港株式会社)	令和4年8月4日	中止	常滑市
愛知県災害対策本部運用訓練 (愛知県)	令和4年9月1日	支部 2	名古屋市
なごや市民総ぐるみ防災訓練 (名古屋市)	令和4年9月4日	支部 6 第二病院 2 愛知県赤十字安全奉仕団 4	名古屋市
大規模地震時医療活動訓練	令和4年9月30日 ～10月1日	支部 8 第一病院 16 第二病院 38	名古屋市
名古屋市災害対策本部運用訓練 (名古屋市)	令和4年10月26日	支部 2	名古屋市
中部国際空港消火救難・救急医療活動総合訓練 (中部国際空港株式会社)	令和4年10月6日	中止	常滑市
日本赤十字社第3ブロック支部 合同災害救護訓練	令和4年11月3日	支部 5 第一病院 4 第二病院 6	長野県
県営名古屋空港消火救難総合訓練 (愛知県)	令和4年10月27日	支部 4 第二病院 6	豊山町
弥富市役所リエゾン連携訓練	令和4年11月9日	支部 2	弥富市
令和4年度旅客船事故対応訓練	令和4年11月22日	支部 4 第一病院 6 第二病院 6 愛知県赤十字災害救護奉仕団 5	名古屋市
令和4年度愛知県・豊川市総合防災訓練	令和4年12月17日	支部 3 第一病院 6 血液センター 1	豊川市
令和4年度愛知地区洋上救急慣熟訓練	—	中止	—



【各種訓練の様子】

## イ. 研修

行 事 名	年 月 日	実施及び参加状況 (人)
令和4年度第1回日本赤十字社愛知県支部救護班要員養成研修	令和4年6月27日～29日	第一病院 19 血液センター 2 看護大学 1
令和4年度第2回日本赤十字社愛知県支部救護班要員養成研修	令和4年12月5日～7日	支部 1 第二病院 17 血液センター 1
令和4年度第1回中部ブロック DMAT 技能維持研修及び第1回中部ブロック統括DMAT 登録者技能維持・ロジスティクス研修	令和4年8月1日～2日	第一病院 3 第二病院 3
日赤災害医療コーディネート研修会 指導スタッフ研修会	令和4年9月10日	支部 1 第一病院 1 第二病院 1
全国赤十字救護班研修会 指導スタッフ研修会	令和4年10月22日	支部 1 第一病院 1 第二病院 2
第15回災害派遣医療チーム研修	令和4年10月30日～11月1日	第一病院 1
令和4年度第2回及び第3回中部ブロックDMAT技能維持研修	令和4年11月3日/4日	支部 1 第一病院 4 第二病院 3 血液センター 1
令和4年度中部ブロックDMAT実動訓練	令和4年11月26日～27日	第二病院 3
令和4年度DMATロジスティックチーム 隊員養成研修	令和4年12月24日～25日	第一病院 1 第二病院 2
第1回こころのケア研修	令和5年2月17日	第一病院 8 第二病院 9 血液センター 1
第2回こころのケア研修	令和5年2月24日	支部 1 第一病院 8 第二病院 9
令和4年度第2回新興感染症クラスター対応研修	令和5年2月25日～26日	第一病院 1
令和4年度日赤災害医療コーディネート 研修会	令和5年1月21日～22日	第一病院 1
令和4年度全国赤十字救護班研修会	令和5年2月11日～12日	支部 1 第一病院 2 第二病院 5
令和4年度愛知DMAT隊員養成研修	令和5年3月25日～26日	支部 1 第一病院 1

### (6) 臨時救護

祭礼や地方公共団体の行事等多数の人が集まるところに救護員等を派遣して傷病者の救護を行った。新型コロナウイルス感染症の影響で、一部の行事は中止となったが、令和4年度は29回実施し、救護員等延べ64人を派遣。臨時救護員によるものにおいては、41人を救護した。

臨時救護実施状況 ※代表的なもののみ掲載

行 事 名	年月日	救護員派遣人数	場 所
国府宮はだか祭	令和5年 2月3日	支部	2
		第二病院	6
		尾張赤十字救急奉仕団	7
			稲沢市

(7) 義援金の受付（国内）

国内で発生した災害に際し義援金の受付を行った。

義 援 金	寄 託 額 (円)
平成30年7月豪雨災害義援金	182,838
令和2年7月豪雨災害義援金	974,430
令和4年3月福島県沖地震災害義援金	1,310,879
令和4年7月大雨災害義援金	763,947
令和4年8月3日から的大雨災害義援金	3,277,904
令和4年台風第15号災害義援金	2,526,066
合計	9,036,064

(8) 赤十字防災ボランティアの養成

災害時に被災者に対して、応急救護や復旧等の活動を行うための赤十字防災ボランティアの養成・研修を実施した。

名 称	開催日	参加人数 (人)
防災ボランティア養成研修会 (特別赤十字奉仕団)	令和4年8月20日	11
赤十字防災ボランティア・地区リーダー養成研修会 (地域赤十字奉仕団員対象)	令和4年10月12日	17
防災ボランティアのこころのケア研修	令和4年9月16日	23
	令和4年9月17日	17
赤十字防災ボランティア・フォローアップ研修	令和5年1月14日	18
赤十字防災ボランティア・地区リーダーフォローアップ研修	令和5年2月15日	37



(9) 防災ボランティアにかかる愛知県との連携

「防災のための愛知県ボランティア連絡会」へ赤十字防災ボランティアを派遣し、災害時における愛知県広域ボランティア支援本部の設置運営訓練に参加した。

また、令和4年2月に新たに設置された「愛知県災害支援のためのボランティア等情報共有会議」に、幹事団体として参加した。

(10) 新型コロナウイルスの感染拡大に伴う対応

ア. 愛知県新型コロナウイルス感染症調整本部への派遣

愛知県新型コロナウイルス感染症調整本部の要請に基づき、患者搬送調整等を行うために日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院及び愛知県支部事務局から医師並びに業務調整員としての職員をそれぞれ派遣した。

## 4. 医 療 事 業

赤十字の医療施設は、平時は公的医療機関として一般の診療業務を行い、災害時には被災患者の収容を行うとともに、医師、看護師、主事等からなる救護班を編成し、災害現場に派遣するなど災害救護活動の重要な一翼を担っている。

当県では名古屋市内に2病院を設置しており、両病院ともに災害拠点病院（地域中核災害医療センター）の指定を受け、災害時の救護活動を行うほか、平時には救命救急センター、地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院、総合周産期母子医療センターとしてその機能を発揮し、小児・腎・循環器医療など先進医療に積極的に取り組んでいる。地域住民への更なる安心と高いレベルの医療を提供できるように、機能統合と一体的運営の体制整備を進めており、その一環として令和3年7月に「日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院」「日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院」と病院名称を変更した。

昨今の新型コロナウイルス感染症に対する取り組みとしては、感染拡大当初から患者の受け入れを行い、両病院ともに愛知県の「新型コロナウイルス感染症重点医療機関」として指定を受け、県をはじめとした行政機関と連携を図り対応を行っている。

このほかに各病院の取組として、名古屋第一病院においては、より効率的に手術室を運用するため、手術室を14室から15室に増設した。また、より高度で質の高い医療を実施するため、2台目の手術支援ロボット「ダヴィンチ」を導入した。名古屋第二病院においては、高度な医療・手術の提供するため、令和4年11月に当院2台目となる手術支援ロボット「ダヴィンチ」を完備したロボット手術室と、血管X線撮影装置と手術台を組み合わせたスマート手術室を増設した。



【日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院】



【日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院】

(1) 病院の概要

区分 施設	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院
所在地	名古屋市中村区道下町3-35	名古屋市昭和区妙見町2-9
診療科	[34科] 〔診療科〕内科、腎臓内科、内分泌内科、血液内科、脳神経内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、化学療法内科、消化器外科、乳腺外科、血管外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、形成外科、整形外科、脳神経外科、小児科、精神科、皮膚科、泌尿器科、女性泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、麻酔科、リハビリテーション科、放射線科、歯科、歯科口腔外科、病理診断科、救急科、臨床検査科	[27科] 〔診療科〕内科、精神科、脳神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、放射線科、麻酔科、救急科、薬物療法内科、病理診断科、リハビリテーション科、歯科、歯科口腔外科
病床数	852 床	806 床
職員数	1,705人	1,819人
開設年月	昭和12年4月	大正3年12月

(2) 患者の利用状況

区分 施設名	外 来		入 院	
	新患者数	延患者数	新患者数	延患者数
日本赤十字社愛知医療センター 名古屋第一病院	31,060人	346,477人	19,208人	237,187人
日本赤十字社愛知医療センター 名古屋第二病院	52,601人	402,600人	22,947人	225,227人
合 計	83,661人	749,077人	42,155人	462,414人

## 5. 看護師養成事業

赤十字看護師の養成事業は、長い歴史と伝統をもつ赤十字の重要な事業の一つであり、災害救護の要員を確保するとともに、医療施設における看護職員の充足を図り、併せて海外での災害、紛争犠牲者を救援する国際医療救援要員として活躍できる質の高い看護師養成を目的としている。

さらに、平成19年11月の赤十字国際会議において、日本赤十字社が「災害看護に一層重点を置くことを通じて、災害が多発するアジア・太平洋地域の赤十字社と協力しながら災害看護教育を推進する。」と誓約したことを踏まえ、大学における災害看護教育の充実を図っている。

### (1) 日本赤十字豊田看護大学

医療の高度化、専門化に的確に対応できる質の高い看護師、国際医療救援活動にも対応できる国際性豊かな看護師、将来の救護員としての赤十字看護師を育成することを目的として、学校法人日本赤十字学園日本赤十字豊田看護大学においては看護師養成事業を担っており、平成16年の開学以来、卒業生の約7割が日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院及び日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院を中心とした赤十字病院へ就職している。

また、平成22年4月1日に開学した大学院看護学研究科修士課程看護学専攻では、保健・医療・福祉の現場でより高度な専門性を発揮できる看護職者や看護管理者、看護学の発展に寄与する研究者を養成している。加えて、平成28年4月1日には大学院看護学研究科共同看護学専攻博士課程を開設した。

学校	養 成 人 員				
	1 年 生	2 年 生	3 年 生	4 年 生	合 計
大 学	139人	139人	120人	134人	532人
大学院 (修士)	9人	9人			18人
大学院 (博士)	2人	3人	7人		12人



【ハイブリッドシミュレータを使用したヘルスアセスメント演習】



【災害看護学演習】

さらに、優秀な救護員としての赤十字看護師を安定的に確保するために制定された、「日本赤十字社愛知県支部特別奨学金貸与規程」に基づき、令和4年度入学生6名をはじめ、30名の学生に対して奨学金を貸与した。

また、平成30年度から日本赤十字豊田看護大学独自の制度として特待生制度を導入し、優秀な成績を修めた学生は授業料を免除することとした。

## （2）幹部看護師の教育

病院の看護業務指導者並びに救護班の看護師長を育成するため、本社の幹部看護師研修センターに適任者2名を派遣して修学させた。

## 6. 血液事業

当支部では、愛知県赤十字血液センターを設置し、安全な輸血用血液製剤を医療機関へ供給している。また、安全な血液を安定的に確保するため、400mL 献血及び成分献血の一層の推進を図るとともに、血液・献血セミナーや各種広報活動により県民の皆様に対し献血への理解を求めている。また、広域事業運営体制を最大限活用することにより、需給管理等事業の効率的運営に努めている。

### (1) 血液センターの概要

(令和4年度末現在)

施設 区分	愛知県赤十字血液センター
所在地	瀬戸市南山口町539-3
事業所・出張所	1事業所・6出張所(献血施設9か所)
移動採血車	11台
職員数	352人
開設年月	昭和37年10月

### (2) 血液の確保状況

区分 施設	200mL		400mL		成分				合計	
	献血者 人	献血量 リットル	献血者 人	献血量 リットル	血漿		血小板		献血者 人	献血量 リットル
					献血者 人	献血量 リットル	献血者 人	献血量 リットル		
愛知県全体	7,320	1,464	171,444	68,577.6	83,074	44,860.0	36,452	20,413.1	298,290	135,314.7

### (3) 血液の供給状況

(単位：200mL換算)

区分 施設	全血製剤	赤血球製剤	血漿製剤	血小板製剤	合計
愛知県全体	単位 0	単位 344,684	単位 123,849	単位 446,015	単位 914,548



【血液を待つ患者さんのもとへ】

#### (4) 献血推進広報

主なキャンペーンとして、下記のとおり実施し、献血の普及啓発を図った。

- ・「世界献血者デー」キャンペーン (6月)
- ・献血ポスターコンペティション (7月～9月)
- ・愛の血液助け合い運動 (7月)
- ・複数回献血キャンペーン (7月～3月)
- ・10代夏の献血キャンペーン (7月～9月)
- ・東海北陸ブロック学生サマー献血キャンペーン (8月)
- ・「めぐる献血」キャンペーン (9月～4月)
- ・オータム献血キャンペーン (11月)
- ・全国学生クリスマス献血キャンペーン (12月)
- ・「はたちの献血」キャンペーン (1月～2月)
- ・卒業献血キャンペーン (1月～3月)
- ・愛知県学生スプリング献血キャンペーン (3月)



献血推進キャラクター  
けんけつちゃん

#### ア. 献血に関する普及啓発活動

県及び市町村との連携により、献血啓発用ポスター・パンフレット等を県内市区町村や献血団体及び献血推進団体へ配布し、献血者確保に努めた。また、新型コロナウイルス感染拡大に伴い休止していた施設見学を6月に再開し、小学生を対象とした「親子血液教室」をはじめ、「血液・献血セミナー」を参集またはオンラインにより実施した。

#### イ. はたちの献血キャンペーン

県内民間放送局 (TV局5社、ケーブルTV局9社、AMラジオ局2社、FMラジオ局2社、コミュニティFMラジオ局9社) でのCM放送、献血協力団体でのキャンペーンポスターの掲示により、献血の普及啓発を行った。

#### ウ. ホームページ及びフェイスブック等のSNSの活用

各種献血キャンペーンの告知や献血会場のお知らせ、事業報告、若年層をはじめ一般の方へ献血の大切さを伝えるなど普及啓発を行った。

#### (5) 検査成績のお知らせ

献血にご協力いただいた方々への感謝の気持ちとして、健康管理に資する検査を行い、希望者には血液生化学検査成績・血球計数検査成績を通知している。

#### (6) 学生献血連盟との協働

大学生を中心とした若年層の献血推進及び普及啓発を目的とする愛知県学生献血連盟と協働し、各キャンペーン等を実施した。

#### (7) 新しい生活様式への対応

献血者が一時期に集中することによる密集や密接回避のため、事前予約の推進と感染予防対策により、安心して献血いただける環境を提供した。



【血液・献血セミナー】



【官庁街献血】



【学生クリスマス献血キャンペーン】

## 7. 講習事業

「苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、いかなる状況下でも人間のいのちと健康、尊厳を守る」という赤十字の使命を具現化することを目的に、「救急法」「水上安全法」「健康生活支援講習」「幼児安全法」の各種講習普及事業を実施している。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮しながらも、令和2年以降中止していた各種養成講習を再開した。感染症蔓延状況下で構築したオンラインでの講習会及び事前に録画したDVDを使用した講習会など、新しい実施方法も活用しながら、主催団体の希望に沿った講習普及事業を展開した。

子ども子育て世代への事業展開として、ソーシャルネットワークサービスへの広告展開により募集を行った幼児安全法のオンライン講習も引き続き実施し、育児でなかなか外出できない方々への講習普及につなげている。また、幼児安全法の一部を映像化し、動画視聴サイトに公開することで、事故予防や起こりやす事故への対応方法を確認するとともに、講習への興味関心をもってもらおう働きかけを行った。

### (1) 救急法

#### <一般普及講習及び短期講習>

病気・怪我や災害から自分自身を守るとともに、急病人やけが人を正しく救助して、医師等引き渡すまでの応急手当の講習を実施している。

指導員派遣の他、オンラインとDVDの活用により、可能な限り依頼に応えるよう取り進めている。

基礎講習		救急員養成講習			短期講習		指導員養成講習			※再掲 オンライン（短期）		※再掲 DVD（短期）	
実施回数	受講者数	実施回数	受講者数	養成者数	実施回数	受講者数	実施回数	受講者数	養成者数	実施回数	受講者数	実施回数	受講者数
60回	1,191人	38回	615人	596人	350回	11,240人	0回	0人	0人	20回	573人	37回	1,246人

#### ○基礎講習（4時間）

救急法概論、心肺蘇生、AEDを用いた除細動、気道異物除去

#### ○救急員養成講習（約10時間）

赤十字救急法救急員について、急病、止血、けが・きずの手当、骨折の手当、搬送、救護等

#### ○短期講習（1～2時間程度）

心肺蘇生・AEDの使い方、包帯法等



【救急法短期講習（心肺蘇生）】



## (2) 水上安全法

### <一般普及講習及び短期講習>

健康の増進を図るとともに水の事故から生命を守るための知識や技術についての講習を実施している。令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により小中学校のプールでの授業が中止になることもあったが、支部主催にて、海での短期講習の他、救助員養成講習を実施した。

救助員Ⅰ養成講習			救助員Ⅱ養成講習			短期講習		指導員養成講習		
実施回数	受講者数	養成者数	実施回数	受講者数	養成者数	実施回数	受講者数	実施回数	受講者数	養成者数
2回	39人	35人	1	5	4	41回	1,466人	0回	0人	0人



【水上安全法短期講習（親子レスキュー）】

#### ○救助員養成講習Ⅰ（14時間：プール）

赤十字水上安全法について、水の活用と事故防止、安全な水泳と自己保全、安全管理と監視、溺者救助

#### ○救助員養成講習Ⅱ（12時間：海）

自然水域における水の事故防止、自然水域における溺者救助と搬送

#### ○短期講習（1～2時間程度）

身近なものを使っての救助法、着衣泳等

## (3) 健康生活支援講習

### <一般普及講習、短期講習及び指導員養成講習>

健康増進・介護予防など必要な知識と高齢者の自立をめざした介護の方法についての講習を実施している。また、災害時、避難所で不自由な生活から高齢者を守るために有用な知識・技術についての講習として、災害時高齢者生活支援講習の普及にも力を入れている。令和4年度は指導員養成講習も実施し、新たな指導員を養成した

支援員養成講習			短期講習		災害時高齢者生活支援講習		指導員養成講習			※再掲 オンライン（短期）	
実施回数	受講者数	養成者数	実施回数	受講者数	実施回数	受講者数	実施回数	受講者数	養成者数	実施回数	受講者数
回	人	人	回	人	回	人	回	人	人	回	人
10	240	226	90	3,839	57	2,222	1	6	6	2	16

○支援員養成講習（12時間）

高齢者の健康と安全、地域における高齢者支援（リラクゼーション、車椅子の操作方法等）、日常生活における介護（からだの動かし方、食事・排泄について、認知症高齢者への対応等）

○災害時高齢者生活支援講習（2時間程度）

災害について、災害が高齢者に及ぼす影響、ボランティアの心得、知って役立つ技術（ホットタオルの作り方、毛布を使ってガウンを作る方法等）



【健康生活支援講習短期講習（足浴）】

○短期講習（1～2時間程度）

高齢者の事故予防と手当の方法、癒しのハンドケア、介護の方法等

（4）幼児安全法

＜一般普及講習、短期講習及び指導員養成講習＞

子どもに起こりやすい事故の予防と救命手当・応急手当の方法、家庭内での看病の方法についての講習を実施している。令和4年度も、子育て世代への支援を重点に、オンラインでの幼児安全法短期講習や、令和3年度末作成動画の公開を実施した。また、今後の子育て世代への支援を見越して、幼児安全法指導員養成講習を実施、新たな指導員を養成した。

支援員養成講習			短期講習		指導員養成講習			※再掲 オンライン（短期）	
実施回数	受講者数	養成者数	実施回数	受講者数	実施回数	受講者数	養成者数	実施回数	受講者数
回	人	人	回	人	回	人	人	回	人
19	255	242	165	3,486	2	25	25	9	304

○支援員養成講習（10時間）

子どもに起こりやすい事故の予防と手当、子どもの病気と看病、子育てにおける社会資源の活用、災害時の乳幼児支援

○短期講習（1～2時間程度）

幼児の心肺蘇生・AEDの使い方、ハンカチ・パンストを使った包帯法等



【幼児安全法短期講習（気道異物除去）】

## 8. 赤十字奉仕団

赤十字奉仕団は、赤十字の人道・博愛の精神のもとに、赤十字の使命とする人道的な諸活動を実践しようとする人びとが集まって結成された、日本赤十字社における奉仕者組織であり、赤十字事業推進の基盤として重要な役割を果たしている。

赤十字奉仕団には、市区町村の地域ごとに組織される「地域赤十字奉仕団」、また「特別赤十字奉仕団」として、青年や学生によって組織される「青年赤十字奉仕団」と特殊技能を持った人たちによって組織される「特殊赤十字奉仕団」がある。

令和4年度においては新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けつつも、感染対策を徹底しながら、コロナ禍以前の活動を再開する奉仕団が多くみられた。

また支部が主催する奉仕団を対象とした研修会等についても対面での実施を基本とし、研修を通して奉仕団同士の顔の見える関係作りの促進につながった。

### (1) 赤十字奉仕団結成状況

#### ア. 地域赤十字奉仕団の結成状況

(令和4年度末現在)

団 数	分団数	班 数	団 員 数		
			男	女	合 計
65 団	349 分団	4,417 班	6,170 人	10,663 人	16,833 人

#### イ. 特別赤十字奉仕団の結成状況

(令和4年度末現在)

団 数	分団数	班 数	団 員 数		
			男	女	合 計
18 団	11 分団	18 班	1,041 人	526 人	1,567 人

### (2) 奉仕団活動

#### ア. 地域赤十字奉仕団の活動状況

(令和4年度末現在)

社資増強に関する活動		災害救護に関する活動		青少年赤十字の普及育成に関する活動		献血推進及び血液センター事業に関する活動		救急法等の普及に関する活動	
延回数	延人数	延回数	延人数	延回数	延人数	延回数	延人数	延回数	延人数
852 回	10,733 人	361 回	12,525 人	55 回	133 人	73 回	375 人	345 回	4,162 人
赤十字病院における活動		社会福祉施設における活動		老人福祉向上のための活動		障害者福祉向上のための活動		子ども・子育て支援における活動	
0 回	0 人	78 回	148 人	147 回	621 人	18 回	104 人	79 回	587 人
その他の活動									
延回数	延回数								
152 回	2,371 回								

## イ. 特別赤十字奉仕団の活動状況

(令和4年度末現在)

社資増強に関する活動		災害救護に関する活動		青少年赤十字の普及育成に関する活動		献血推進及び血液センター事業に関する活動		救急法等の普及に関する活動	
延回数	延人数	延回数	延人数	延回数	延人数	延回数	延人数	延回数	延人数
60回	238人	64回	259人	10回	26人	0回	0人	22回	41人
赤十字病院における活動		社会福祉施設における活動		老人福祉向上のための活動		障害者福祉向上のための活動		子ども・子育て支援における活動	
延回数	延人数	延回数	延人数	延回数	延人数	延回数	延人数	延回数	延人数
2回	5人	0回	0人	3回	3人	13回	52人	1回	1人
その他の活動									
延回数	延回数								
184回	534回								

### (3) 地域赤十字奉仕団活動事業

#### ア. 地域赤十字奉仕団特別事業

地域赤十字奉仕団活動の充実を図るため、「児童の健全育成」の活動を推進しているが、新型コロナウイルス感染拡大の影響によって、計画されていた奉仕団活動が中止となるなど同事業における助成実績はなかった。

#### イ. 地域赤十字奉仕団員に対する講習指導員資格取得及び技能向上に対する支援事業（愛称：地域いきいき講習サポート事業）

地域赤十字奉仕団の活動として「救急法」「健康生活支援講習」及び「幼児安全法」の講習を普及できるように、団員の中から講習指導員を養成するとともに、その費用の一部を助成した。

<令和4年度指導員養成実績>

- ・幼児安全法講習指導員・・・10団12人

#### ウ. 地域赤十字奉仕団活性化事業

専門的な知識を持った地域赤十字奉仕団の活動を支援するとともに、地域でより信頼される団になってもらうため、赤十字防災ボランティア地区リーダーの活動や講習指導員がいる団の活動に対し、経費の一部を助成した。

- (ア) 地域赤十字奉仕団災害対応力強化事業 20団
- (イ) 地域赤十字奉仕団講習普及事業 21団
- (ウ) 地域赤十字奉仕団地域福祉活動推進事業 8団



【防災訓練での炊き出し研修】



【子どもへの読み聞かせ勉強会】

(4) 特別赤十字奉仕団活動事業

特別赤十字奉仕団の活動を奨励するため、15団の特別赤十字奉仕団に対し助成を行った。



【テント設営研修】



【防災イベントでの青年奉仕団による防災普及】

(5) モデル奉仕団事業

「赤十字奉仕団活動推進指導要領」に規定される活動分野の中から、重点的な活動として推進する地域赤十字奉仕団3団に対し助成を行った。

団名	テーマ	指定期間
蒲郡市赤十字奉仕団	社会福祉施設における活動	令和2～令和4年度
あま市赤十字奉仕団	救急法等の普及に関する活動	令和4～令和6年度
安城市赤十字奉仕団	社会福祉施設における活動	令和4～令和6年度



【地元地域で子ども食堂を実施】



【児童館での幼児安全法講習の実施】

(6) 奉仕団員の育成（研修会の開催）

ア. 養成研修

研修	開催年月日	場所	参加者
基礎研修会 (第1回)	令和4年6月21日	愛知県支部及び オンライン開催	29人
基礎研修会 (第2回)	令和4年6月24日	愛知県青年の家	21人
基礎研修会 (第3回)	令和4年6月29日	愛知県支部及び オンライン開催	45人
リーダーシップ 養成研修会	令和4年9月7日、8日	日赤愛知医療センター 名古屋第二病院 災害管理センター棟	22人

リーダー 交流研修会	令和4年12月13日	日本赤十字豊田看護 大学	36人
青年奉仕団 基礎研修会	令和4年7月9日	愛知県支部	10人
青年奉仕団 発展研修会	中止		

イ. そのほかの研修

各奉仕団の主催で、コロナ禍でも感染防止策を徹底しながら、自らの知識及び技術の向上を図るため、奉仕団内での赤十字講習の実施や防災にかかる研修や訓練等が実施された。

(7) 多文化共生

日本人も外国人も地域で共に暮らす対等な構成員として活動できる多文化共生社会の実現に向け、行政、国際交流協会、大学及びNPO等関係団体との連携を強化した。

(8) 赤十字奉仕団委員長会議

支部重点事業の紹介や、事業計画・年間予定の伝達を行った。

年 月	会 場
(第1回) 令和4年5月	愛知県支部及びオンライン開催
(第2回) 令和5年2月	各地域で開催

(9) 赤十字奉仕団愛知県支部委員会

年 月	会 場	内 容
(第1回) 令和4年5月	愛知県支部及び オンライン開催	・ 愛知県支部における子ども・子育て支援事業、多文化共生事業の推進について
(第2回) 令和5年2月	愛知県支部	・ 令和4年度地域奉仕団アンケートの結果について ・ 令和5年度の奉仕団活動について

(10) 本社・ブロック主催会議、研修会

奉仕団の育成発展を図るため各種会議・研修に出席した。

ア. 本社主催

名 称	年 月 日	会 場	参加者
中央委員会	令和4年5月30日～31日	日本赤十字社本社	1人
令和4年度支部赤十字奉仕団担当者研修会	令和4年7月6日	オンライン開催	2人
全国青少年赤十字賛助奉仕団協議会総会	令和4年7月14日～15日	日本赤十字社本社	1人
令和4年度赤十字ボランティア・リーダー研修会	当支部参加者なし		

## イ. ブロック主催

名 称	年 月 日	会 場	参加者
青年赤十字奉仕団代表者及び担当者会議	令和4年6月25日～26日	長野県支部	4人
赤十字奉仕団委員長並びに担当者会議	令和4年9月13日	オンライン開催	2人

### (11) 赤十字奉仕団活動報告集

赤十字奉仕団間の情報共有を行い団活動の一層の充実を図るため、また、奉仕団の認知度の向上を図るため、「令和3年度赤十字奉仕団活動報告集」を発行した。

発行部数 450部

配布先 県内の奉仕団、地区・分区、図書館、県内メディア、県・市町村NPO支援センターなど

### (12) 赤十字奉仕団支部指導講師

コロナ禍における今後の奉仕団の指導育成を図るための支部開催の各種研修会について、感染防止策を講じながら実施可能なプログラムの検討などを行った。



## 9. 青少年赤十字

青少年赤十字事業では青少年が赤十字の精神に基づいて、日常生活の中で望ましい人格と精神を自ら形成し、ひいては世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう、学校教職員並びに教育行政機関の理解と協力を得ながら事業を展開している。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染状況に影響を受けることもあったが、オンラインを活用したり、時期を変更したりして開催するなど、対策を講じながら事業を進めた。

### (1) 加盟状況

(令和4年度末現在)

地区	小学校		中学校		高等学校	
	学校数(校)	メンバー数(人)	学校数(校)	メンバー数(人)	学校数(校)	メンバー数(人)
名古屋	182	65,255	68	29,917	県立 70 名古屋市立 12 私立 25 専修 11	
尾張	113	49,684	52	25,876		
知多・海部	116	47,281	53	24,402		
東三河	46	16,360	18	7,389		
岡崎	53	24,918	23	12,327		
刈谷・安城	45	24,643	20	13,872		
豊田	83	26,549	32	13,967		
私立	0	0	7	3,210		
国立	1	559	1	432		
計	639	255,249	274	131,392		

その他	学校等数(校)	メンバー数(人)
保育所・幼稚園	55	4,000
特別支援学校	14	2,223

	学校等数(校)	メンバー数(人)
合計	1,100	433,787

### (2) 指導者講習会・研修会・協議会等の開催

青少年赤十字の育成・発展のためには、より良き指導者を得ることが肝要であるため、例年、本社や他県主催の行事に関係者を派遣してきたが、令和4年度も昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大の影響から、遠方への出張が困難な状況にあったため、オンラインにより受講した。支部においては、対策を講じながら、各種講習会、研究会及び発表会を開催した。

ア. 本社主催

行事名	年月日	会場	参加者数(人)	指導者(人)
指導者協議会総会	令和4年6月29日	オンライン開催	1	
合計		1回	1	

イ. ブロック主催

行事名	年月日	会場	参加者(人)
指導者協議会長及び支部担当者研究会	令和4年6月17日	オンライン開催	8

ウ. 愛知県支部主催

行事名	年月日	会場	参加者(人)
指導者協議会役員会(2回)	令和4年4月19日	愛知県支部会議室	31
	令和5年1月20日	名古屋市公会堂	25
指導者協議会総会	令和4年4月19日	愛知県女性総合センター	245
第1回トレセン検討会	令和4年5月13日	愛知県支部会議室	24
第2回トレセン検討会	令和4年9月3日	愛知県支部会議室	13
指導者講習会	令和4年8月21日・22日	愛知県青年の家	54
トレセン・指導者講習会スタッフ打ち合わせ会	令和4年6月11日	愛知県青年の家	32
指導者講習会実践発表会	令和5年1月28日	愛知県支部会議室	47
加盟校校長・指導者研究会	令和5年1月20日	名古屋市公会堂	174
高校メンバー連絡会(2回)	第1回令和4年5月28日	愛知県支部会議室	46
	第2回令和4年11月5日	愛知県支部会議室	37
指導者協議会専門委員会(5回)		愛知県支部会議室(4回) WEB会議(1回)	37
高校活動発表会	令和5年2月4日	愛知県支部会議室	33
高校指導者研究会(2回)	第1回令和4年5月28日	愛知県支部会議室	12
	第2回令和4年11月5日	愛知県支部会議室	12
合計		19回	822

(3) リーダーシップ・トレーニング・センター（略称トレセン）の開催

例年、青少年赤十字メンバーのリーダーの養成と加盟校間の交流のため、地区別及び小・中・高等学校別にトレセンを開催している。しかしながら、令和4年度は新型コロナウイルス感染状況の影響を受け、一部のトレセンの開催を中止あるいは縮小した。

主 催	年 月 日	会 場	参加者（人）
名古屋地区	令和4年8月9日・10日	稲西小・西城小・新郊中・愛知県支部	18
尾張地区	中 止		
知多・海部地区	中 止		
岡崎地区	7月28日・29日	岡崎市少年自然の家	68
刈谷・安城地区	中 止		
豊田地区	12月24日	豊田市福祉センター	103
支部（小・中学校）	中 止		
支部（高等学校）	7月31日～8月2日	愛知県青年の家	8
合 計			197

(4) 高校メンバー対象講習会の開催

高等学校青少年赤十字活動の中心となるリーダー養成のため、本社主催のスタディー・プログラムに高校生を参加させた。

行 事 名	年 月 日	会 場	参加者数 （人）	指導者 （人）
本社主催スタディー・プログラム	令和5年3月21日 25日	オンライン開催 本社	2	1

(5) 高校メンバー対象講習会の開催

例年、青少年赤十字メンバーの質的向上と活動の活性化をめざして、救急法講習会を開催しているが、令和4年度は内容ごとに3回に分けて開催した。

講 習 会	年 月 日	会 場	講 師	受講者（人）
救急法講習会				
・救急法基礎講習	令和4年7月25日	愛知県支部	愛知県支部 救急法指導員	19名
・高齢者の理解と支援講習	7月26日			6名
・避難所で役立つ知識と技術講習	7月26日			7名

(6) 活動研究推進校の研究発表

令和3・4年度研究推進校として、2校が研究に取り組んだ。犬山市立羽黒小学校は「自ら考え表現し、自己肯定感を高める子の育成ーつなぎ合い 高め合う 羽黒の子ー」をテーマに、豊田市立中山小学校は「人・もの・こととの関わり合いを通して、主体的に行動する児童の育成ー児童会活動の実践を通してー」をテーマに研究し冊子にまとめた。

令和4・5年度の研究推進校として、2校が研究に取り組んでいる。名古屋市立稲西小学校のテーマは、「自ら『気づき、考え、実行する』児童の育成～ICT機器を活用して、自分の考えを広げたり、深めたりする活動を重視して～」、豊橋市立汐田小学校のテーマは、「人とのかかわりの中で、気づき、考え、よりよく生きる～心も元気！体も元気！笑顔あふれる汐田っ子の育成～」である。

高等学校は、愛知県立高浜高等学校、愛知県立瀬戸北総合高等学校、名古屋市立桜台高等学校の3校が研究に取り組んだ。活動発表会で研究の成果を発表した。

(7) 機関紙「あいち青少年赤十字」の発行

青少年赤十字活動の充実と広がりのために、機関紙を3号発行し、加盟校の取り組みを紹介した。

形態	機関紙1回（7月発行）、壁新聞2回（11月・1月発行）
発行部数	機関紙6,300部、壁新聞7,000部（3,500部・3,500部）
配布先	加盟校並びに未加盟校など



【機関紙】



【壁新聞】

## (8) ボランティア活動

高等学校青少年赤十字の校外活動の一つとして、例年7月、8月と12月に栄・名古屋・大須・岡崎・豊田の献血ルームにおいて献血の呼びかけ活動を実施している。今年度は165名の高校生が活動に参加した。



【献血呼びかけ活動】

## (9) 創設100周年スタディー・ツアー

2022年に青少年赤十字が創設100周年を迎えたことを記念して、小学生JRCメンバー9名が、愛知県内にある赤十字ゆかりの場所と赤十字施設をめぐる研修ツアーを行った。赤十字の今と昔を学び、体験したことをまとめた壁新聞2,400部を、加盟小学校に配付した。



【博物館明治村「日本赤十字社中央病院病棟」の見学】



【奥殿陣屋で創設者「大給恒」のルーツを探る】

## (10) 防災教育

自分で判断して自分のいのちを守り、守りたいのちで他の人を助ける子どもを育てたいという思いを伝えるため、本社が作成した防災教材「まもるいのち ひろめるぼうさい」と「ぼうさいまちがいさがしけんはっけん」、及び愛知県支部オリジナルの防災教材「いえまですごろく」を使用して防災教育を展開した。また、学校の要請に応じて、救急法講習、避難所体験訓練などを行った。



【小学校の授業でも活用される防災教材】

(11) 国際交流

海外赤十字社のメンバーや指導者と交流を行うことで、赤十字社の諸活動及び青少年赤十字事業について理解を深め、国際親善と青少年赤十字活動の推進を目的に実施している。

令和4年度は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴いモンゴル赤十字社からメンバーを受け入れることはできなかったが、国際交流事業として7月にモンゴル赤十字社とオンラインにて交流会を開催し、高校生1名、中学生8名が参加し、国際理解・親善を深めた。

種 別	時期・期間	参加者（人）
青少年赤十字国際交流集会	令和4年7月2日 開催	メンバー 9 指導者 1 支部職員 5

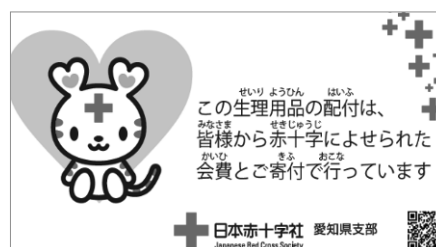


【オンライン会議システムを活用したモンゴル赤十字社との国際交流】

(12) 「生理の貧困」の対応

経済的な理由等で生理用品を手にするできなくなる「生理の貧困」について、国や自治体が無料配布の取り組みの実施、検討を進めるなか、困っている児童・生徒を支援するため、愛知県内の小・中・高等学校等に対して生理用品の配付事業を実施した。

品 目	数 量
昼用生理用品	43,044 パック (1 パック 20 個入り)



【配布した生理用品に同封したカード】

## 10. 福祉事業

今日の社会情勢の変化や国民の意識の変化に伴う複雑・多様化したニーズに対応するため、当支部では日本赤十字社が有するあらゆる資源を活用し、人間の尊厳の保護をベースに地域のニーズを的確に把握し、保健・医療・福祉の総合的活動を展開するとともに、ノーマライゼーション理念の普及啓発に関する地域福祉活動推進要綱に基づき、赤十字の特色を生かした事業を展開した。

### (1) 赤十字健康教室の開催

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、回数は少なくなったものの、病院を会場に地域住民の方々の健康管理・維持などの知識を高め、社会の一助となるよう赤十字健康教室を開催した。

開催実績	
回数	受講者
5回	182人



【日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院での健康教室の様様】

### (2) 医療社会事業相談室事業

患者又は患者の家族が直面する苦痛を軽減し、療養環境をより安全で快適なものとするため、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院及び日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院において、生活障害の軽減に向けての相談を受けつけ、一日も早く健康を回復し社会生活に復帰できるよう、指導と助言を行った。

第一病院	第二病院	合計
27,772人	12,661人	40,433人

## 11. 国 際 活 動

日本赤十字社は、自然災害や紛争により被害が発生した場合、赤十字国際委員会及び赤十字・赤新月社連盟の要請に応え救援活動を行うとともに、「自然災害への備え」と「疾病の予防」という2つに焦点をあて、開発協力事業を実施している。

当支部においても、本社の行う国際活動に呼応し、青少年赤十字海外支援事業（バヌアツ）、保健医療支援事業（バングラデシュ）に対する資金拠出を行った。また、その他にも第3ブロック各県支部と共同して、シリア難民支援事業（レバノン）、給水・衛生キット支援事業（アジア・大洋州）及び地域保健強化事業（東アフリカ地域3か国）についても資金を拠出している。

紛争地や被災地で救援活動や復興支援、開発支援をおこなうため、医療スタッフを現地に派遣するとともに、救援金の受け付けを行っている。

### （1）開発協力

対象国	所要額	事業内容
バヌアツ	1,500,000円 (愛知県単独)	学校教育の中で防災減災に対する意識づけをすることにより、地域の災害に対する脆弱性を軽減するための事業
バングラデシュ	1,500,000円 (愛知県単独)	長期避難生活が見込まれるバングラデシュ南部避難民および地元コミュニティのレジリエンスの強化事業
レバノン	8,000,000円 (愛知304万円)	レバノンにおけるシリア難民の生活環境改善、特に給水・衛生面の改善を向上させるための事業
アジア・大洋州	6,000,000円 (愛知228万円)	洪水やサイクロンなどに見舞われる国や地域に給水・衛生キットを配備して、災害発生時に迅速に給水・衛生活動を行うための支援事業
東アフリカ地域 3か国	6,000,000円 (愛知228万円)	住民の保健、水・衛生、防災に関する知識を向上させ、その知識を用いて自身の健康といのちを守るための事業

### （2）国際救援活動

#### ア．海外派遣

令和4年度は、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院からウクライナ人道危機救援事業などに医師や看護師などのべ11人を派遣した。

名称	派遣先	派遣要員
国際赤十字・赤新月社連盟保健要員	レバノン共和国	看護師 2人
バングラデシュ南部避難民保健医療支援事業	バングラデシュ人民共和国	理学療法士 1人 看護師 2人
ウクライナ人道危機救援事業	ウクライナ	放射線技師 1人 医師 1人 理学療法士 1人
パレスチナ赤新月社医療支援事業	パレスチナ自治区（ガザ）	看護師 1人
国際赤十字・赤新月社連盟(IFRC)	IFRC 本部（リモート）	事務 1人
トルコ・シリア地震救援事業	トルコ共和国	看護師 1人





【トルコ・シリア地震救援事業】



【ウクライナ人道危機救援事業】

#### イ. 本社の行う研修会等

国際医療救援部拠点病院である日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院にて、災害外傷研修、電気関連技術研修及び国際救援・開発協力要員のための集中英語研修を開催した。また、国際医療救援部向け研修や月例研修会を実施し、人材の育成を行った。

さらに、3年ぶりに対面型イベントにブースを出展し、赤十字の国際活動について広報活動を行った。

#### ウ. 海外救援金の受付

赤十字が行う海外での災害時緊急援助や復興支援、開発協力のための救援金を受け付けた。

海外救援金	寄託額 (円)
中東人道危機救援金	127,097
バングラデシュ南部避難民救援金	171,896
アフガニスタン人道危機救援金	318,202
ウクライナ人道危機救援金	51,353,713
2022年アフガニスタン地震救援金	150,230
2022年パキスタン洪水救援金	644,393
2023年トルコ・シリア地震救援金	29,034,549
海外罹災者救援金 (無指定)	225,000
青少年赤十字活動資金 (一円玉募金)	599,375
合計	82,624,455

#### (3) 安否調査

消息不明者を捜す安否調査は赤十字の国際事業の一つであり、国内外（本社経由）からの依頼に基づき調査を行っている。

#### (4) 赤十字通信

赤十字通信は、捕虜・抑留者等の消息について赤十字国際委員会を通じ家族や知人に届けるものであるが、令和4年度の取り扱いはなかった。

## 12. 赤十字の普及

毎年5月の赤十字運動月間を中心に、テレビやラジオを媒体としたCMの無償放送の依頼をするほか、県内の法人・団体の協力による赤十字を通じた社会貢献事業の推進による赤十字普及を図った。また、パートナーシップ協定を締結しているプロスポーツチームの試合会場にて、PRブースの出展を行うとともに、SNSを活用した広報を積極的に行うことにより、赤十字事業への理解・協力につながる取り組みの発信を行った。

### (1) 愛知県内での広報活動

ア. テレビ（民放5社）、ケーブルテレビ（12社）、ラジオ（AM2社・FM1社、コミュニティFM7社）を通じた赤十字CMの放送

イ. パートナーシップ協定を締結している地元プロスポーツチームと協働した赤十字事業の推進



【名古屋オーシャンズとともにフットサル教室&「やさしい日本語」でのAED講習を実施】

### (2) 地域型赤十字フェスティバルの開催

広く赤十字活動の普及を図るため、県内各市町村で実施される福祉祭り等の行事に赤十字ブースを出展している。令和4年度は新型コロナウイルスの影響により一地域のみで開催となったが、一般県民に対して活動の普及を行った。

### (3) 地域のための防災・減災訓練

地域の「自助」「共助」の力を高めることを目的に、例年「地域のための防災・減災訓練」を行政と協力して開催しているが、令和4年度は新型コロナウイルスの影響により中止となった。

### (4) 広報紙「日赤あいち」の発刊

発行回数 年4回  
発行部数 86,000部

### (5) フォトニュースの発行

発行回数 年2回  
発行部数 6,000部

(6) 愛知県赤十字有功会

愛知県赤十字有功会は、日本赤十字社金色・銀色有功章受章者の有志により世界の平和と人類の福祉のため活動する赤十字の支援団体として昭和52年6月6日に結成され、赤十字の社資募集の協力等の事業を行っている。

会員数 313名（令和4年度末現在）

(7) 愛知県赤十字大会

赤十字を支援してくださる赤十字会員及び寄付者並びに奉仕団等奉仕者の方々に対し、感謝の意を表し、赤十字思想の普及と社業のより一層の充実を図るため、日本赤十字社名誉副総裁寛仁親王妃信子殿下をお迎えして「令和4年愛知県赤十字大会」を開催した。

日 時 令和4年11月2日（水）

場 所 愛知芸術劇場大ホール





